

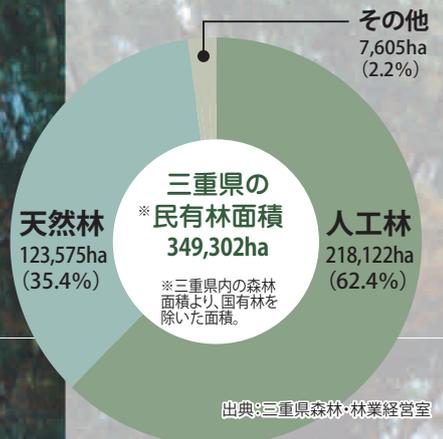
特集 森林の守人

三重県は土地面積の3分の2が森林で覆われており、その森林面積の約6割が、かつて人の手によって植えられたスギやヒノキの人工林です。
この人工林のなかには、手入れのされていない放置林が目立っています。本来、森林が持つはたらきをより機能させるため、このような放置林を健全に育成していく必要があります。
そこで、今回は松阪市飯高町の林家、上尾欽吾さんにお話をうかがいました。
林業の仕事が、人工林の健全な育成にどのような役割を担っているかを知ることから始めてみましょう。

植えて、育てて、伐つて、植えて……これが一番いい循環。
人が山に入ることが一番の森林保全なんだ。

うえ お きんご
上尾 欽吾 さん

全国林業研究グループ連絡協議会 理事
三重県林業研究グループ連絡協議会 会長
三重県農林水産支援センター 評議員
三重県森林審議委員
いいたかウッドイークラブ 会長
みち端林業集団整備事業に関わる。
平成18年度 全国林業経営推奨行事にて
農林水産大臣賞を受賞
平成18年度「森の名手・名人」に選ばれる。



出典: 三重県森林・林業経営室